

校友さんい

立命館大学産業社会学部校友会報

編集人 片岡雅彦

発行人 荒岡作之

発行所 産業社会学部校友会
〒603

京都市北区等持院北町56-1

電話 (075)463-1131(代表)

振替 京都3-19595



現、存心館食堂風景、左下は広小路時代の清心館食堂風景

学生の頃

あき時間になると

コーヒーの紙コップを持って

ガラランとした食堂の隅に陣どって

クラスの友だちとおしゃべりをした。

うどんのゆげや

ソースやドレッシング

10円のみそ汁のみそのおいが

まざりあった昼食時や夕食時

食堂は熱気につつまれて

生協食堂らしかったけれど

ガラランとした食堂のすみで

とりとめもない話をする方が

私は好きだった。

いくつかの春がめぐり

食堂はあふれ

ことはついに

学面館前にテントが立ち

弁当が売られたという。

そして秋

新しい時と、新しい学生の中で

学面館食堂もまた大きく新しくなる。

またここで

忘れられない思い出が

いくつも生まれることだろう。

(題字は元総長・細野武男氏)

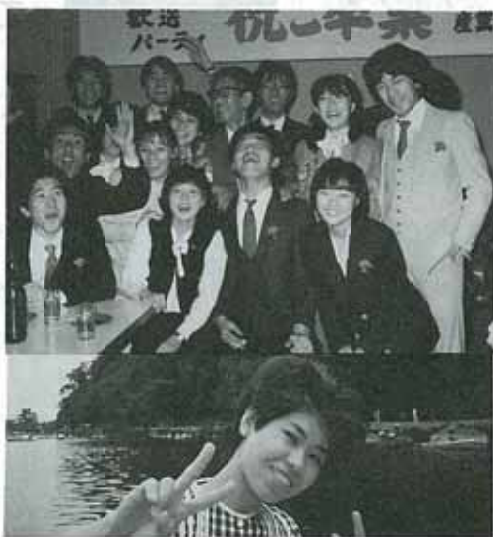
「ゴトキンさんじゅうろくせみ」と書くと、いかにも長ったらしい感じがしますが、やはり先生のあの江戸っ子口調をまねて、歯切れ良く「ゴトキンゼミ」と呼んでいたのだから、

お名前が後藤金十郎よりゴトキン・カネトローとあだ名されたこともあるとお話伺いましたが、我々ゼミ生としては、敬称略のゴトキン(ごめんないノ)がなんと書けても親しみやすいのであります。

卒業して早や五年。卒業のテーマさえ、はるかかなたへ過ぎ去りし今日の頃、折りにふれ、思い出される先生の一言があります。卒業式の日、正装した我ら一同に向かい、実社会の旅立

「後藤先生の一言」の重み

本学職員
大津喜代美 (昭58卒)



下宿の友人といき、看板をさがしたこともあった。先生の家にゼミの皆さんが、先生の手紙まで歩く途中に、「水族館がある。」という先生の話は、実は、きんぎょ、鯉の販売店だった。コンパと合宿に、参加できなかった先生は、煙草と睡眠薬と少々ウイスキーが、手離せない下町の東大出だといつもいっておられた。年賀、暑中見舞と自筆でいただくハガキが、私の生活の励み

になっている。京都、立命、後藤ゼミ、立憲、下宿と、青春のページは、一冊の本となっている。この本を、大切にしたい。次世代の子供達に語り継いでいこうと思っている。

つ心構えを述べられた後、「プロレタリアートは、体が資本です。」その時は、産社の先生らしい表現だなあという印象でしたが、社会人も五回生になると、しみじみ実感として重みを持ち始めました。

同じ大学に勤務しながら、逆に安心して「無沙汰を重ねてしまい、先生不孝なゼミ生です。ゴトキンゼミ卒業生の皆さん、せめてもの罪ほろぼしに、先生や大学への連絡等ありましたら、どうぞ気軽にお申し付け下さい。そうしたら私も、先生の個研まで走って、少しドキドキしつつドアをノックする機会も増えますから。

体育(身体動作)の科学は応用科学であって、実践にどう役立つかが重要とされます。実際の現場に適用できる報告を出すためには、実験とデータ処理の処理・分析の積みかさねが必要となり、研究室にいる時間が必然的に長くなってしまいます。よく主任教授からは、「時間を無駄にすることは、人生を短かくしていることと同じである」と叱咤されています。特に、学会前ですと夜を徹しての作業が続くことがあります。その不規則な生活のせいか、体育人にあるまじき腹の突き出た体型になってしまっています。自分自身運動処方をしてしまえばならないほどの過体重になってしまいました。

Slow but steady and enjoying

日体大助手
伊坂忠夫 (昭60卒)

まあ、体型のことはさておき、好きで進んだ分野ですので、遅々としながらも着実に、一般の人が利用できる研究成果をあげて行きたいと思っております。人よりもノロイ分、長生きをして、一生に出来る仕事の量を多くしたいですね。

草々

立命館高校出身は、よくクラスの面倒をみる。伊坂君などそのサイたるものである。彼は陸上部以来のエネルギーを駆って、日体大の修士課程に現役入学、更に修士をクリアして、助手。今夏の立命大での体育学会でも活躍した。(後藤)

校友スクランブル

歴史でつづるゼミのB物語

後藤金十郎ゼミ・ユニークマンとユニモア

柔軟な気持ちで しなやかに

大道 環 (昭57卒)



皆さん、お元気ですか。京都を去ってから在学期間よりも長い年月が経ちました。学生時代の収獲と言え、北海道とは全く異質の京都という土地で暮れたこと、多くの友人を得たこと、と思っいますが、その友人たちも全国各地に散らばり、生れ育った故郷とは言葉人間関係の作り直しから再

出発。この間転職もしたし随分いろいろと貴重な経験をしました。今は北大の医学部という様々な職種の人々の大勢いる所でハードな仕事ながらも毎日明るく楽しい気分です。働かせてもらっています。この頃つくづく思っは、地面に足をつけて生活していくことの大変さと柔軟な気持ちでしなやかに生きて



青春のページが1冊の本に

城山共済会館勤務

前田 和三 (昭52卒)

ユーミンの曲で胸が、目がしらが熱くなる年齢になった。卒業して十年、私達の回りは、めまぐるしく変化したが、父母が私達を育ててくれたように生活が、毎日過ぎていく。充実してはいないが、人生の目標を見いだせないまま漂っているようだ。あまりにも学生時代が、自由で感動がありすぎたからであらう。

後藤ゼミは、人気が良く、競争率も高かった。レポートで選考されるのだが、ゼミの一員となった時は、とてもうれしかった。ユニークな授業で、自らの学習意欲を高め、自分達で何かを見つけていくグループ学習だった。煙草はすっていたいし、たまに喫茶店で授業ということもあった。先生の話で思いたすのは、北山の八丁平でセイコーの看板を見られたこと、国産のオオムラサキのことです。雪の北山登山に

いくことの大切さです。自分自身まだまだ先の長い道にはあります。さて、後藤ゼミでの最大の思い出と言え、やはり立命のPR映画「未来」

に生きる。にゼミの構成員全員が出演したこと。私は、私も映画の中でアホなことをしゃべってまして今だに赤面しますが、普段は行くはずもない嵐山(?)

彼女の長く美しい髪とユニークなマスクは、立命イモ説という他大学のヒガミ風評を粉砕した。映画の永久保存を望む。(後藤)

の某料亭にわざわざ出向いて、そこでの勉強会風景を撮影するなどなかなか愉快な楽しい出来事でした。先生はその後お孫さん生まれ、優しいおじいちゃんぶりを風の噂に聞きました。来年は停年退職されるそうですが、環境が変わっても今まで同様良いお仕事をなさって下さい。

健康に留意されてどうぞお元気で



現代社会と私

母親大会、高令者大会
に参加して



河合 幸尾

さいきん、高令者大会などの催しに参加する機会があった。一つは三三三日本母親大会「社会を高める高令者の役割」分科会であり、もう一つは、第一回全国高令者大会である。いずれも夏の日程が照りつける暑い最中での大会であったが、これらの分科会や大会の参加者数は、予想をはるかに上回り、「高令者の役割」分科会などは、会場に入りきれず、午後からは、より広い会場に変更、それでも廊下に坐り込んでいる人が沢山であるほどの盛況であった。

そのなかで、とくに目立ったのは、高令者ばかりでなく若者の参加もかなりあったことである。現代の高令化社会のなかで、どのようにしたらさまざまな困難を切り拓き、平和で豊かな社会を築きあげてゆくことができるのか、そのなかで、高令者の役割や、高令者と連帯した若者の役割は一体何んであるのか、これが参加者の共通したテーマであったように思う。

高令者の若さ
エネルギー

それにしても、「高令者」といわれている人たちの、若々しさやひたむきさには、正直いって圧倒された。発言する声は、一様に大きく、「働くことが好きで好きで、昼も夜も絶え間なく働いている」といった発言もあった。若者の発言は、ともすれば高令者の発言に圧倒されそうだった。

「高令者であるからといって、そのことが貧困の原因であってはならない。高令であるからといって、自由が奪われてはならない。誰かの支配を受けたり、外からの強制があつてはならない。高令、老人生活は自由でなければならぬ。高令者というものは、孤独であつてはならない。」これは老人問題を考える際の、三つの基準としてあげられているものである(江口英一)。「もうひとつの労働者階級」つまり平凡な老人たち「老後保障地域団体連絡会編 一九八六年」。今日の社会のなかで、高令者の貧困や、さまざまな社会的強制・差別、孤独などは、住宅問題や医療の問題とともに、今日の老人問題を考える際の大きな指標になっているのだと思う。戦前・戦中・戦後を生きてきた高令者は、今日の大きな社会変動のなかで、また再び自らの生き方をねもとから問わざるを得ないという事態のまににある。長い人生のなかで、もっとも豊かで平和な時期でなければならぬ若さの高令期を、これまでの激動の時期と同じように自らの力によって乗り切つていかねばならないという事態に立たされている。このような事態は、何も高令者だけに限ったことではない。若者も壮年・熟年にある者も同じことだ、といえるかもしれない。それにしても今日、高令者に向けている事態は、一層深刻になつてきていることは否定できないだろう。「高令者の役割」分科会や、全国老人大会での熱気は、この点を自覚し、全国各地で地道に活動してきたことの表れであつたように思う。

もうひとつの
労働者階級

いま一つ教えられたことは、高令者といっても、高令者以外の、若者や壮年・熟年者などとも異なつた、何か特別の階級なのではないかということである。それは、若者や壮年・熟年者の労働や生活が延長されただけの、しかも豊かな経験や生活の知恵をもった層というだけのことであり、なるほど高令者は、労働能力が次第に衰え、病気になるが、ちである。しかしそれは、誰にも必ずふりかかってくる人間の自然の姿であり、何も高令者だけの異常な姿ではない。つまり高令者に対する社会保障や社会福祉は、すべての人に対する正常な対のつたものである。今日高令者の多くは、このことを自覚していよう

現代社会と
価値意識
高令化社会とは
どういふ社会か



豊田 保

価値観の多様化

現代社会というものをどのように捉えるのかという点については、いろいろな角度から、また、いろいろな方法論をもつて理解することが可能であると思われ、現代社会を捉える場合のひとつの理解の仕方として、その特徴を「価値観の多様化」というものに求める人も多い。この人たちの見地にたてば、現代以前の社会では国民の価値観というものは、共通する部分が多かつたということになるのだが、それはともかく、現代の価値観なり価値意識の多様化という現象は、一人ひとりの国民の個性化の現われとして、また、自律的傾向として、あるいは民主主義の発展に合致するものとして、肯定的に捉えられている側面が強いようである。

障害児(者)の
発達と価値意識

話が全く変わつてしまつて恐縮だが、

価値意識の
多様化の背景

さて、これはおかしな事実である。国民の「価値意識の多様化」は、その個性化、自律化、民主的発展の方向であるとするならば、その一方で、集団的に共有し合える価値意識の形成が(共有という以上は多様化とは違ふ)、重層障害をもつ子どもたち、大人たちという範囲ではあるが、その成長をプロセスに導くという矛盾した話になつてしまつたのである。ところで数年前に子どもたちの間に、「カラスの勝手しよノリ」という言葉(音楽)が流行したことがある。これは恐らく「自分が何をしよう」と他人とは関係ありません」という内容のものであると思われるが、この言葉の流行の背景には、当世の子ども事情との言葉が子どもの意識のなかで重なる部分があつたからではないだろうか。つまり、受験競争の強烈な状況のなかでは他人のこともなにかまづてはいらねえというところなのである。こうみると、子どもにも限らず、言へば、あまり価値意識が多様ではないようである。その意識は受験競争の束縛から解放されていらないようであるが、それはさておき、現代社会において肯定的に評価されているところの「価値意識の多様化」というものは、少し突き詰めていくと、実はこの「カラスの勝手」に似たり寄つた性質のものである。私固有のレジャーを楽しむもよし、私だけの服装もよし、私だけのライフス

スタイルもよし、これらを否定する気は全くない。しかし、これらのことは、「カラスの勝手」を本質的な意味で乗り越えているものなのだろうか。結論めいたことを言えば、今日の「価値意識の多様化」といわれているものは、以前のようないくつかの閉鎖的・地域共同体などの種々の制約から解放された形式的自由人としての、また労働力所有者としての独立人としての、そして商品消費者としての個性化の表明である。と言えらるのではないだろうか。さらに思ひきつて先を急げば、ある経済学者は指摘する。現代社会における国民の自由、独立、個性を真にわがものとするためには、政治、経済、文化などの社会的諸分野を自らコントロールし運営するための能力を、国民自身の力として身につけなければならぬ。そのことをもつてはじめて、真に一人ひとりの国民の自由、独立、個性は自分自身のものになる。つまり、個人の発展は、彼をとりまく集団の発展や社会の発展と同一のラインのなかにあって、共同の価値の実現をめざす実践のなかで捉えられねばならず、そこでこそ個人の自由、独立、個性は開花していく。

共同の価値意識の
創出を

例えば平和という価値、人権という価値などは、その捉え方においては多様であつても、平和という価値そのものは多様であつてはならないのであり、国民の共同の価値とならなければなら

ないのである。そして、平和という価値の共有のなかにあってこそ、私たち一人ひとりの成長は実現されていくのではないだろうか。障害の重い知恵おくれの子どもたち、大人たちの、集団的な価値の共有のものとての集団的共同のなかにおける発達の事実が、そのことを教えてくれているのではないだろうか。だとすれば、話が再び変わるが、私たちが学校の現場などで子どもを評価する場合に、その子がどの程度の知識を身につけているのかということをもひとつの基準として、それとともに大切なことは、その子のなかにどのような価値意識が形成されているのかということについても忘れてはならないと思ふのである。つまり人類が歴史の発展のなかでつくりあげてきた価値は、未来の主権者としての一人ひとりの子どもに共同の価値として形成していかなければならぬことであると思ふのである。そしてそのことが、知識というものについても真に、知を力として発揮していくことにもつながっていくのではないだろうか。私は職業柄、こうした意味において、「価値観の多様化」時代を生きている現代の大人として子どもにいかにか知識を身につけさせるのかということと同時に、いかに確かな価値意識を身につけさせるのか、また、いかに価値意識の形成を支える感情や、共有の価値を担う集団を運営する力を身につけさせるのかということを考えていたところ(という)は、この面の研究が教育研究のなかでは相対的に遅れていると思つていたからな

著作・論文

「子どもの感性と発達」 東研出版
教育用語「活動の前提としての欲求について」 ひき書房
保育情報「財界人の〇才児観」 保育研究所

経歴 一九七四年三月、立命館大学産業社会学部卒業、同年四月、東京都に入都、都立東村山福祉園を経て、現在、都立日の出福祉園指導課主査



産社の情報処理教育の発展を期待する

▼産業社会学部の調査実習室にTSS端末が設置されてから丸一年がたちました。現在、学内各所には一〇〇台以上のTSS端末が分散配置されていますが、これは昨年度の学内計算機センタースステム・グレートアップにともなうものです。

今のところ、調査実習室に置かれた端末は五百ですが、学部学生のみならず教員のかたがたに大いに利用されています。また、全学ではのべ二〇〇〇名以上の学生がTSS端末の操作をともなう科目に登録しており、以学館TSS教室（端末二十五台）と二号館TSS教室（端末三十七台）で実習しています。

コンピュータは、現代階では命令ひとつ与えるにしても一般的にはキーボードから入力してやらなくてはなりませんから、人間にとってテレビや洗濯機に比べると、とつぎにくい存在かもしれません。でも、コンピュータと人間の間にある「距離」はどんどん克服されています。コンピュータが自動車のように手軽に扱える道具にまで成長し、簡単に手伝いをしてくれる気軽なパートナーになる日もやがて訪れるかもしれません。

▼*ERROR、16メッセージに今

まで何度出会ったことでしょう。そしてそのたびに、自分のミスを棚に上げて勝手に機械の頑固さを責めたものです。そのような失敗と、ノーエラーで作業が終わった時のうれしさとを、もう一年もつづけています。

コンピュータの処理能力はたしかにすばらしいものですが、私をそれにひきつけているのは、むしろその操作性です。キーボードに触れるまでは、コンピュータは専門家のものである、というイメージを持っていましたが、実はもっと我々の身近なものになっていたのです。このことに気づくことができただけでも、数限りないエラーは無駄ではなかったと思います。

▼学生時代にゼミで初めてコンピューター

計算機センターでは、今や多くの産社学生を目にすることができます。より多くの学生がコンピュータに触れ、その能力を社会学へと利用することを期待します。

ターと扱ってから早三年半。卒業して
端末から離れることができ内心ほっと
したのも束の間、仕事で機械担当の係
に就くことになり、再び悪戦苦闘の日
々が始まることになった。ゼミでは、
SPSSという統計処理のパッケージ
プログラムをただ使うことが中心で、
(若干PL/Iというプログラムも学
習したが)基礎的なところでの個人勉
強がまったく不足してしまっていた。
そのためシステム全体を把握する能力
が欠けていたりエラー発生時にも対処
しきれないことが多く、自分の力のな
さをいやというほど思い知らされてい
る毎日である。しかしそうした中でも
課内の機械化プロジェクトの一員とし
て、業務の整理、課題の検討を行うと
同時に、様々な情報の提供を初めてし
て、より一層の学生相談・サービスの
充実を実現させていくという喜びもあ
る。

これからも常により進んだシステムを構築していくことになると思うが、頭がアベンド（コンピュータ用語で、プログラムが何らかの異常な原因で、処理が中断すること）しないよう頑張りたいと思う。

計算機センター課題登録者数

三回生演習テーマ決定

●は調査実施せず

ました。学生にとっては希望のゼミをめざして、頭を悩ますシーズンです。照下さん。

第6号 (6)

古川先生退任記念

コース制本年度より実施
本年度より実施された、産業社会学部のコース別の科目は以下の通りです。皆さん方の在学時と比較されて、いかがでしょうか。

・社会心理学、社会心理学Ⅱ、現代家畜論、地域福祉論、社会心理学、情報産業論は、3・4年生配当コース両南門教育科目
③コースにまたがって開設される科目
○必修(履修指定科目) ○選択(履修希望科目) ※印は隔年開講科目。
○共通専門教育科目の①は、(理)=理学、(生)=生物学、(交)=交通、(地)=人間、文化の各コースを

退職された先生はいま……

近況報告

山口正之（大阪経済法科大学教授）

一六年間住みなれた大覚寺門前の狭い借家から宝塚中山台のニュータウンに引越してきてから、もう一年が過ぎた。中山台といえは、関西の有力会社の社長やプロ野球の有名選手などの豪邸があるので知られているが、私の場合はもちろんそうはいかない。

新築ではあるが、大量生産規格のマンションの一室である。それも、ほとんどがまだ三十歳代の若いパパやママに、せいぜい幼稚園か小学校にいって

いる小さな子供が一人か二人の核家族という典型的なニューファミリー・マンションだ。私の妻の適切な表現でいうと、「西洋長屋」のようなものだ。

つまり、値段が手ごろだったというわけである。それでも、住宅金融公庫から一〇〇万円を借金する羽目とな返してしまっているところなのには、これまた妻の名言だ。

山の手だから眺めはいい。「百万ド

ルの夜景」とはちとオーバーであらうが、涼しい風が吹き抜けてクーラー知らずである。ここで印税がたつぷり稼げるベストセラーでも書き上げるとするか。夏の夜の夢と笑い給うことなかれ。案外本気である。

これでも、精神年齢の若さでは、すこしは自信がある。この原稿もワープロで書いているぐらいだから

校友会での現住所不明者

現住所をご存知の方があればお知らせ下さい。

工藤 正美 (昭49卒)	川西 隆雄 (昭49卒)	金沢 幸治 (昭49卒)	大久保龍城 (昭47卒)	榎本 善 (昭45卒)	植月 均 (昭48卒)	飯田 信夫 (昭45卒)	井上 雅之 (昭45卒)	秋野 初男 (昭46卒)	浅田 保博 (昭44卒)
山根由紀夫 (昭50卒)	宮本 隆志 (昭52卒)	三好 桃子 (昭54卒)	松下 修郎 (昭53卒)	西 裕二 (昭54卒)	田中 陽子 (昭52卒)	田口 基 (昭54卒)	澄野 寛 (昭50卒)	篠原あい子 (昭51卒)	佐藤 渉 (昭53卒)



ルの夜景」とはちとオーバーであろ
うが、涼しい風が吹き抜けてクーラー知
らずである。ここで印税がたっぷり稼
げるベストセラーでも書き上げるとす
るか。夏の夜の夢と笑い給うことなか
れ。案外本気である。

これでも精神年齢の若さでは、すこしは自信がある。この原稿もワープロで書いているぐらいだから。



学部長

遠藤 晃

『産社が求められる時代に』

わが産社の「良さ」「伝統」というと、どういふイメージを皆さんは浮かべられますか。少々荒っぽくとも、ともかく「立向う姿勢」があることをその一つに挙げられないでしょうか。ですから、「構造不況」「産業空洞化」「財政危機」等々、決して明るくはない世相が続いていますが、私から

第三回役員会開催のお知らせ

第三回役員会を左記の通り開催いたします。

記

開催日 一九八七年十月二十五日(日)
時間 役員会 午後二時(産社会議室)
懇親会 午後三時より

昭和62年度
全国校友大会開催のお知らせ

とき 10月24日(土) 午後5時
ところ 京都パークホテル
(東山三十三間堂東隣)

見れば、それは「産社が求められる時代」だということです。実際にも、卒業生の皆さんは、各地でバイタリティ溢れる活躍を重ねておられることでしょう。

その産社が創立三周年を迎えた今年から、新しいカリキュラム体制へ移行しました。「産業・社会」「都市・生活」「発達・福祉」「人間・文化」の四コース制がそれです。社会の総体を見据え、それに立向っていくというかねての伝統のうへに、四つのコースのいずれかで専門性をしっかり身につけようという主旨です。「鬼に金棒」の力量づくりというわけです。産社だけではありません。学園全体

学園創立九十周年記念事業募金

募金額 一七億円を目標に！

ご協力ありがとうございます。

ひきつづきご支援を！

学園では現在、記念事業計画として①記念館の建設・新学部棟(国際関係学部)・理工学部新棟・中学校・高等学校記念ホール②記念出版「西園寺公望伝」の刊行・学園史料集の刊行など③国際交流基金・学術研究助成基金・スポーツ振興基金④記念事業など、五十億円相当の事業の取組みがすすめられています。

このうち募金目標額が三億五千万円となっており、九月末目現在、約十七億四千万の到達状況になっています。

も情報工学科、国際関係学部の創設など、「二世紀をめざす学園創造」への意気高い取り組みに、衣笠キャンパスはいま活気に満ち溢れています。そしてそのうへに、いま全学をあげて追求していることとしているのは、この二一世紀をめざす学園創造の事業を社会的スケールに押し広げていくこと、つまり「社会的ネットワークづくり」です。

これは校友の力を結集することなしには進められないことです。産社校友会への期待は、さらに大きく高まっています。「産社の時代」を全国で現実のものとしていくために、いっその発展を期待しています。

産社校友会としても、事業計画への理解と募金活動に対する協力を総会で確認しており、ひきつづき産社校友の皆さんのご理解と、募金活動に対するご支援方よろしくお願いいたします。

・寄付金の種類 法人・個人
・個人対象 一口、三万円 なるべく一口以上お願いいたします。(一口未満も可)

寄付金募集についての問い合わせ・連絡先 立命館創立二〇年・学園創立九〇周年記念事業事務局(四六四一五五二五直通)



産社校友会加入のお願い

会則第三条 事業をより豊かにするために財源が必要である。この主旨を十分ご理解の上、積極的に入会していただくことを心よりお願いいたします。

終身会費 三千元

入会される方は同封の「振込通知票」に必要事項をご記入の上、「送金下さい」なお既に送金済の方は不要です。さらに学園創立二〇周年を記念して作成いたしました「学部づくりの二〇年」(産社社会学部二〇年小史)にすぐに関与し立つて担当署名入りの既卒者名簿(第一期生一九八四年三月卒)を共に三千元(送料含)にて頒布しておりますので、ぜひこの機会に合わせて購入していただくことをお願いいたします。

卒業生会員募集！

学会卒業生会員になっていただいた方には、「立命館産社社会論集」を発行の都度お届けします。生涯の学習と研鑽のために、是非とも本学会に入会してください。

会費は年額一、五〇〇円で、二年分前納していただくことになっています。申込みは産社事務局まで。



▼学園創設から二五周年目にあたる一九八九年秋に産社社会学部校友会として「総会にあわせ一大イベント」に取組もうではないかという声がチラホラ。「学部まつり」のような企画は？ 学部・学生・校友・地域をまきこんだ学術講演 交流などは？ その日は、ぜひ泊りこみでやろうなどの声がよせられています。

企画やご意見などありましたら、どしどし編集室までお寄せ下さい。

▼日差しに秋が深まりゆく、今日この頃ですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。編集室では、発行間際によりやく校了をおえました。いつもながら、原稿あつめには頭をいためています。お便りや、身近なホットニュースなどがありましたら送って下さい。

